

授業科目名	専門性強化演習Ⅱ			担当教員	園田 希、上野 満里、 助教以上の全看護教員	
開講年次	4年前期	セメスター	7		時間数(単位数)	30 (1)
必修選択	必修	授業形態	演習		使用教室	
授業の目的	1. 健康課題を持つ人々への看護を探究するために、これまで学んだ知識や技術を統合させ、専門的な技能を獲得する。 2. 地域で生活する人々への看護を探究するために、地域包括ケアシステムを学び、多職種連携・協働およびケアマネジメントについて理解する。					
到達目標	1-1) 自身の看護実践に対する興味・関心や自己の課題に基づき、実習で取り組むテーマを明確にできる。 1-2) 実習目標を設定し、その達成に向けた実習計画を具体的に立案できる。 1-3) 実習計画を遂行するために必要な関係機関との交渉ができる。 2-1) 地域包括ケアの必要性を理解できる。 2-2) ケアマネジメントの概念とプロセスについて説明できる。 2-3) 地域で生活する人々の健康レベルや健康状態に応じた支援について理解できる。					
ディプロマポリシーにおける科目の位置づけ	本科目はレベルⅤ実習（看護の統合実習・地域包括ケア実習）に向けて準備をするための科目である。レベルⅤ実習では「看護を自ら探究し、創造的に考え実践することが出来る。また、将来の保健医療福祉のあり様を考えることが出来る」ことを目指している。実習計画を立案していく過程では、主体性が求められて「自己教育力」「問題解決力」を養成する。 また、多職種連携・協働を理解し「チームで働く力」を養成することを目指す。さらに、看護の専門性を探究する総合的な視野を培うことにより、看護を発展させるための基礎的能力を身につけることを目指しており「看護の統合」に位置づけられている科目である。					
ディプロマポリシーとの関連	人間の尊厳と権利を擁護する力	自己教育力	チームで働く力	問題解決力	看護の専門性を探究する力	
	○	○	○	○	◎	
授業計画						
回	授業内容	授業方法	学修課題 (予習・復習)		取組時間	担当者
1	専門性強化演習Ⅱコースガイダンス（看護の統合実習・地域包括ケア実習合同）	演習	実習要項を読み、自己課題を整理してくる。		1 時間	園田 上野
2	既習の臨地実習を通して学んだ看護を学生カンファレンスや教員からの指導を受けてリフレクションし、自己の学習課題を明確にす	演習 (GW)	学習課題を明確にするためにリフレクションを行う。		2 時間	実習指導担当 教員
3	看護の統合実習計画立案1（学生カンファレンスや教員からの指導を受けて実習目的の明確化と実習目標の設定）	演習 (GW)	自己の学習課題を明確にし、興味や関心のある実習テーマを考える。		1 時間	実習指導担当 教員
4	看護の統合実習目標達成に向けて必要な知識の習得	演習 (GW)	関心のあるテーマについて文献等で学習をする。		2 時間	実習指導担当 教員
5	看護の統合実習計画2（学生カンファレンスや教員からの指導を受けて実習目標達成に向けた行動計画の立案）	演習 (GW)	実習計画書を作成する。		2 時間	実習指導担当 教員
6	看護の統合実習計画3（学生カンファレンスや教員からの指導を受け実習計画を修正する）	演習 (GW)	学生カンファレンスや教員の指導をもとに実習計画を修正する。		1 時間	実習指導担当 教員

7	立案した実習計画をもとに実習施設との交渉や調整を行う	演習 (AL)	実習施設との交渉のために必要な文書等の準備を行う（事前準備）。	1 時間	実習指導担当教員
8	実習施設との交渉や指導を受けた内容をもとに実習計画を完成させる	演習	実習指導者（実習施設）で助言・指導を受けた内容をまとめ、実習計画書の改善点を明らかにする（事前準備）。教員へ報告後、助言を活用して最終版の実習計画書を作成する（事後課題）。	1 時間 1 時間	実習指導担当教員
9	地域包括ケアシステム構築の背景 ケアマネジメントとチームアプローチ	講義	予習：地域包括ケアシステム、ケアマネジメント、チームアプローチの言葉と内容を調べてノートにまとめる。これらについて、小テストを実施する。 復習：実習で活用できるようにノートにまとめる	予習 1 時間 復習 1 時間	上野西村
10	地域コミュニティにおける生活者主体の支援	講義	予習：生活者、国際生活機能分類（ICF）について言葉と内容について調べてノートにまとめる。 復習：実習で活用できるようにノートにまとめる	予習 1 時間 復習 1 時間	上野西村
11	地域で生活している精神障害者への支援 Q-ACT	講義	予習：当事者・家族の生活、アウトリーチ、包括的地域生活支援、リカバリー、ストレングスの言葉と内容について調べてノートにまとめる。 復習：実習で活用できるようにノートにまとめる	予習 1 時間 復習 1 時間	Q-ACT 北九州 植村
12	テーマ毎の学修を行う。 1. 病院から在宅への生活継続支援（継続支援）	演習 (GW)	予習：テーマに関する政策・法律・制度、面接・相談技術について調べてノートにまとめる。 自分が実習を行う実習施設の概要、関連機関や関係職種の機能などについて調べてノートにまとめる。 復習：演習を通して学修したこと、今後の学習課題を明らかにして実習に活用できるようにノートにまとめる。	予習 2時間 復習 2 時間	実習指導担当教員
13	2. 地域で最期まで自分らしく生きるための支援（在宅看取り）				
14	3. 1 法人を拠点とした地域医療支援（在宅支援施設） 4. 地域コミュニティでの健康づくり				
15	5. 障害を持つ人・児への地域支援サービス				
先行履修科目					
テキスト		特に指定しない。			
参考文献		実習テーマに関する文献は、学生各自で収集し、活用する。			
評価方法		看護の統合実習のための演習（2 回から 8 回）：実習計画書作成 30% 取り組み姿勢 20% 地域包括ケア実習のための演習（9 回から 15 回）：課題レポート 40% 小テスト 10%			
教員等の実務経験		看護の臨床経験のある教員がその経験を活かして講義演習を行います。 精神看護の現場で活躍する Q-ACT 北九州 植村氏が包括型地域生活支援の実際を講義します。			
メッセージ					